

Living the LOTUS

Buddhism in Everyday Life



開祖随感

おうびょうよく 応病与薬

「若し法を聞くことあらん者は ひとりとして成仏せず
ということなけん」と仏さまが私たちに約束してくだ
さっている法華経は、どんな人をも救いとる真理の
教えです。しかし、たとえば病気の違い、病状の変
化に応じて、お医者さんが与える薬が違うように、真
理の教えも、その人に応じ、その苦しみに応じてい
ちばん適切なかたちで、具体的に説いてあげなくて
は、本当に人を救うことはできません。

その問題、その人に応じた処方が方便なのです。
大法則だけを示して、これが理解できないよう

は程度が低すぎる、などというのは慈悲が足りない
のですね。

この人をどうしても救わなければならないと真剣に
なったら、自分の体験でも知識でも、もう、ありった
け総動員して、全力を振り絞らずにいられません。

その慈悲のほとばしりであつたら、どんなに強い
言葉でも、反発を買うようなことはありません。また、
優しく包み込む言葉で相手を甘えさせたり墮落させ
たりするようなことは決してないのです。

『開祖随感』9, p. 66-67)

Living the Lotus 2019年9月号 (Vol.168)

【発行】立正佼成会 国際伝道部

〒166-8537 東京都杉並区和田2-7-1
普門メディアセンター3F

Tel: 03-5341-1124

Fax: 03-5341-1224

E-mail: living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

編集責任者: 齋藤高市

編集チーフ: 鈴木健祐

校閲者: 竹谷祐市郎、小坂和正、菊池克之

編集スタッフ: 国際伝道部スタッフ

立正佼成会は1938年に庭野日敬開祖、長沼妙佼協祖によつて創立された、法華三部経を所依の経典とする在家仏教教団です。家庭や職場、地域社会の中で釈尊の教えを生かし、平和な世界を築いていきたいと願う人々の集まりです。現在は庭野日鏡会長とともに、私たち会員は仏教徒として布教伝道に励みながら、宗教界をはじめ各界の人々と手をたずさえ、国内外でさまざまな平和活動に取り組んでいます。

Living the Lotus—Buddhism in Everyday Life(法華経を生きる～生活の中の仏教)というタイトルには、日々の生活のなかに法華経の教えを活かして、泥水に咲く美しい蓮の花のように、人生を豊かに、そしてより価値あるものにしていきたいとの願いが込められています。本誌を通じて、世界中の人々に日々の生活のなかで活かす仏教の教えをお伝えします。

「違い」があるからこそ

立正佼成会会長 庭野日鏡



みんなを愛おしむ心

きのつらゆき こきんわかしゅう 紀貫之が、『古今和歌集』に収めた自身の恋歌の一つに、次の歌があります。

「世の中はかくこそありけれ吹く風の 目に見ぬ人も恋しかりけり」(吹き渡る風のように、顔を見たこともない人をも恋しいと思うのが、世の中というものなのですね)

これを恋愛の歌として読めば、それはそれで理解できます。ところが、ある方によると、この歌は、私たちがなかなか気づかない一つの「真実」を歌いあげているというのです。その「真実」とは、人はみな心の根底において、この世に存在するすべてのものを愛おしいと感じ、慈しんでいる、ということです。

しかし、現実にはそうとはいえない状況があちこちで見られます。考え方やものの見方の違いが原因で人と言ひ争ったり、いがみあったり、交流を断ったり、国同士が戦火を交えたり……。残念なことに、宗教間の対立も現実の問題として存在します。多くの方が、他人との違いを受け入れられずに苦しみ、悩み、無益な争いまでしているのです。

そうしたなかで、私たちが身近でできることは、他者との違いを違いとして認めて受け入れることですが、それにはまず「私の胸の内にも、この世のすべてのものを愛おしいと感じ、慈しむ心がある」と自覚することです。すると、人と自分に違いがあることの尊さも見えてくるはずで

「違い」がある意味と尊さ

私たちは、一人ひとり異なる因と縁によって生まれてきています。また生まれてからも、一人ひとりがそれぞれ独自の縁にはぐまれて、「私」という個性があります。





ですから、人種や容姿はもとより、人と考え方やものの見方が違うのは当然で、違いを理由に対立したり、排除したりするのは、自分の個性を否定することと同じです。

宗教の世界においても、人それぞれの縁に随^{したが}って救われる道が異なるのは自然なことで、キリスト教の教えで救われる人もいれば、イスラム教や仏教の教えで救われる人もいます。それは、安らぎを求める人が、信じ仰^{あお}ぐ教えがたくさんあるということです。この地球に生きるすべての人に安心を与えるため、宗教・宗派のそれぞれが個性を発揮しつつ、お互いに補^{おぎな}いあっていると云えます。

宗教をそのように見ると、人を安心に導^{じあい}くという慈愛の一点において、宗教は一つに結ばれていることがわかります。そして、宗教によるその慈愛のはたらきかけによって、私たち自身も、心の底に具^{そな}わる「他を愛おしみ、慈しむ心」を掘り起こされ、それを実践せずにはいられなくなる——仏教でいえば、それが菩薩^{ぼさつ}の生き方です。

私たちには、ふと自他の違いを感じて、人にやさしくできないときもあります。そういうとき、外に向いた目を自分の心の内側に向けると、違いを受け入れやすくなります。

私は、国際会議の席などで、意見の異なる人に出会ったときに、よく「私にはない考えをもっておられて、すばらしいな」と感じます。そして、その違いをとおして、まだまだ知らないことばかりの自分であると教えられるのです。自分の意見を声高に主張し、違いを盾に角突きあわせるよりも、違いを認め、受け入れて相和^{あいわ}し、その和の醸^{じょう}成^{せい}をお互いに喜びあえるほうが幸せではないでしょうか。

法華經の「薬草論品」に「如来の説法は一相一味なり」とありますが、宗教に共通する目的と、私たち一人ひとりの胸底^{むなそこ}に宿る心を考えあわせると、この宇宙船地球号の乗組員はみな、安らぎと幸せを得ることを約束されているという意味で、「宇宙の真理は一相一味」とも云えます。私たちには、それを現実の世界で証明するお役があるのです。

(『佼成』2019年9月号)





7月27日、立正佼成会の「全米布教60周年記念サンガの集い」がラスベガスで開催され、参加者を代表して4人の会員が「悟りストーリー」と題して信仰体験を発表されました。Spiritual Journeyのページでは、9月号と10月号の2回にわけて、式典で発表された「悟りストーリー」を紹介します。

ご供養を通して見つけた生きる力

ロサンゼルス教会
マイク・ソクセン

私の「悟りストーリー」は、15年前に私を立正佼成会に導いてくれた妻のエミと共に始まりました。高校生の頃、釈尊に関する本を読んだことはありましたが、数年前に妻のおかげで修行を始めるまで私の仏教理解は浅いままでした。10年前、当時の小高利之教会長さんの立ち合いのもと、私たちはロサンゼルス教会で結婚式を挙げました。そして、2009年と2014年に子どもが生まれたときには、日本ではお宮参りにあたるお祝いを教会でしていただきました。こうして教会にはたびたび足を運んでいましたが、毎日ご供養をあげるようになったのは、5年前の2014年、二人目の子どもが生まれた直後に職場で起きたある事故がきっかけでした。

それは、人命が失われた大きな事故でした。この事故が原因で私は心に深い傷を負い、不眠症に悩まされるようになりました。私自身には過失や責任はありませんでしたが、事故の現場に居合わせていたため

に、その時の記憶が何度も繰り返しよみがえってきて私を苦しめました。やがて私は、それまでの自分自身の人生は何だったのか、自分の生き方はどうだったのか自問するようになりました。

何週間も妄想に悩まされ、落ち着くことのない私の心は、枝から枝へ飛び移ってやまない愚かな猿のようでした。不安に苛まれ、まるで顕微鏡を覗くように、それまでの自分の人生を細かく見直しをしながら過ごす毎日でした。私は当時40歳になったばかりで、息子が生まれ、大学の修士課程を修了した直後だったにもかかわらず、事故のせいで、気持ちがひどく落ち込んでいました。いまの職場をやめて、新しい仕事を探そうかとも思いますが、まずは暗闇の中で何もできずに途方に暮れていた自分の気持ちを立て直すことが先決でした。

そんな精神状態のなか、その年の7月のある日、吉澤孝之教会長さんに相談すると、30日間毎朝經典一卷を読誦するようご指導くださいました。ご指導を実践するやいなや、気持ちが楽になるのを感じました。日に日に心が落ち着いていき、もとの自分を取り戻していきました。

ある日ご供養をしていると、經典のある一節が目に入り込みました。それは「衆罪は霜露の如し 慧日能く消除す 是の故に至心に 六情根を懺悔すべし」という観普賢經の一節でした。私は自分の六根を清浄にしようと一生懸命でした。そんな私にとってご供養は安穩を感じるひとときでした。そして、この經典の言葉によって、私の考え方に変化が起き始めました。



「全米布教60周年記念サンガの集い」で説法するソクセンさん

ご供養を通して、日を追うごとに、もとの自分が戻ってくるのを感じました。そのため、30日が過ぎた後も、毎日の読誦修行を続けることにしました。

以来、毎日経典一卷の読誦を続け、今年で5年になります。さらに、以前は数ヶ月に一度しか行かなかった教会へも、毎週日曜日に参拝するようになりました。

ご供養を始めて数ヶ月後、私はそれまでの職場をやめ、新たな仕事を求めて就職活動を始めましたが、7回連続で不採用となってしまいました。今後どうしたらよいかかわからず、私はご供養を続けながら、古くからの友人を訪ねたり、以前勤務していた学校で講演をしたりして過ごしました。すると、求人について尋ねたことすらなかった学校から、ある日、思いがけず仕事の依頼を受け、私はふたたび教職に就くことができたのです。

今日、私たちはかつてなく生きにくい世界に生きています。しっかりした世界観や体系的な修行なくしては、この嵐のような現実に立ち向かうことはできません。その点、仏教はどんな状況も成長の糧にしてくれる素晴らしい教えです。

ご供養を続けることで、私はこれまで人格の向上を目指してきました。仏道修行のありがたさを教えてくれた立正佼成会に感謝し、開祖さまに心から御礼を申し上げたいと思います。

毎日のご供養をとおして、私は集中力がたいへん高まり、以前よりずっと辛抱強くなりました。そして、諸行は無常であること、だからこそ一瞬一瞬を大切にしなければならぬことを学びました。

5年前、私は妻からもっと深い信仰心を持つように言われましたが、日々の実践と向上への努力を重ねることで、私は何よりも妻の期待に沿うことができたように思います。

妻のエミと二人の子どもたち(スカイとエカ)の良き支えとなり、さらには学校の生徒たちをサポートしながら、より良い生き方をしていくために、立正佼成会の教

えと仏教は私の精神的基盤となりました。正しい心を忘れないでさえいれば、仏教は常にさまざまな手段を示すことで、私に目標をかなえる力を与えてくれました。

昨年、私たちロサンゼルス教会の会員は、細山裕康教会長さんと一緒に、ご本尊拝受のため日本に行きました。ご本尊を拝受したことで、私の信仰はさらに堅固なものになりました。現在、妻は北米国際伝道センターで仕事をさせていただき、私は講義を受け持つ大学で昇進の機会を得ることができました。また、1年半前から、私はロサンゼルス教会で参加者が自作の詩を朗読するイベントを主催しています。ロサンゼルスに住んでいる私の友人は皆、教会が大好きです。

この素晴らしい実践の教えを私に教えてくださった立正佼成会と妻のエミに感謝します。教えとの出会いを仏さまのおはからいとして信受し、行く先々でご法をお伝えすることをお誓いします。

私にはまだ学ぶべきことがたくさんあります。今でも自分のことが身のまわりの世界を理解し始めたばかりの子どものように感じられることもたびたびですが、どんな状況にあっても物事を良い方向に変えられる教えの存在を知ったことで、自分がこれまで以上に強い信仰心と自信に支えられていることを感じられるようになりました。そのことに私は心から感謝しています。

仏教と詩を通して、私は「悟り」を見出すことができました。最後にもう一度、立正佼成会に感謝を申し上げます。そして最愛の妻にも感謝を伝えたいと思います。エミ、ありがとう。



私を教えに導いてくださった二人の人生の師

バンクーバー法座
イカリ 光代

皆さま、よろしくお願ひいたします。カナダのバンクーバー法座から参りましたイカリ光代と申します。本日はお説法の機会をいただき、心から感謝申し上げます。私の信仰体験をお話するにあたり、導きの親の境田州男教会長さん、そして芳澍生時代の実習時から私をずっと教え導いてくださった田中祐子さんとの出会いを中心に、お話しをさせていただきたいと思ひます。

私が両親、特に母親との関係に悩んでいた頃にはさかのぼります。両親と心を開いて話せなくなったことで、私は寂しさを紛らわすように、16才の時にタバコを吸い始めました。それに合わせてコーヒーも大量に飲むようになりました。私の行動の変化に気づいた母は、どうしていいかわからず、地元の水原教会（現在の新発田教会）に赴任されていた境田教会長さんに助けを求めました。母の話聞き、境田教会長さんは私と会う時間をつくってくださいました。私は信仰三代目ですが、高校に入った頃から教会を避けるようになっていました。当時は母も祖母も教会の活動に熱心で、祖父と父もそんな二人に協力的でした。私はそのおかげさまで、のちに私の導きの親となる境田教会長さんとのご縁をいただきました。

振り返ってみると、境田教会長さんには、いつも深いお慈悲と愛情をかけていただいていたことに気づきます。境田教会長さんは私にも仏性があると心から信じてくださり、さらになんとか私を救ってあげたいという深い想いから、私を仏道に導いてくださいました。

境田教会長さんもタバコを嗜まれ、教会長になる前は佼成出版社で記者をされていたそうです。教会長さんに、翻訳家になることが私の夢ですとお話しす

ると、私にも文章を書く能力があるとおっしゃってくださいました。私の手をとり続けるために、簡単な翻訳や通訳の仕事を手伝わせてくださいました。今考えると、境田教会長さんは方便を駆使して、教えに対する私の興味や関心を掻き立ててくださっていたのです。両親との信頼関係は相変わらず築けていなかったものの、最初に私を信じてくださった教会長さんには心を開くことができました。

教会長さんは、どのような機根の人に対しても、その人にふさわしい方法で導いてくださいましたが、私には特別手を焼きながら教化してくださっていたことを感じます。

そして、教会長さんから二度にわたってご推薦をいただき、私は芳澍女学院国際情報専門学校に進学する決意を固め、入学のお手配をいただきました。

み仏さま、開祖さま、会長先生の深いお慈悲のおかげさまで、芳澍で出会ったルームメートの姿を通して、私は母に対して抱いていたある感情の存在に気づくことができました。その感情に向き合うことはとても



「全米布教60周年記念サンガの集い」で説法するイカリさん

怖く、受け入れられるようになるまでには時間が必要でした。私が小さい頃、母は私の祖父母、特に祖母との関係に苦しんでいました。母が感情的になる場面を目にするうちに、感情をコントロールできない母に対して嫌悪感を抱くようになっていました。それと同時に、私は母に甘えることができず、気づかぬうちに孤独も感じていました。

母に対する嫌悪感から目をそむけ、心を落ち着かせるためにタバコを吸っているのが、本来の自分の姿だと思っていましたが、芳澍での学生生活を終える頃には、そうすることで仏性を殻で覆っていたことに気づくことができました。

境田教会長さんとお話をする時、私はいつも良い子の仮面を被って話しているつもりでいました。しかし、本当は教会長さんが私の中に隠れていた仏性をすでに引き出してくださっていたことに、あとになって気づくことができました。私は自分自身を正しく見ていなかったのです!

そのことが、私が今までの信仰生活を通していただいた一番大きな変化だと気づきました。

私が考えていた「本当の自分」はどこかへ追いやられ、新しい自分 = 仏性が表に現れてきたのです。

芳澍の二年生のとき、布教実習で練馬教会に行かせていただきました。そこで、私を今までずっと教え導いてくださっている田中さんとのご縁をいただきました。私がどんな状況にあっても、田中さんは仏さまの慈悲の働きを分かりやすく教えてくださり、日常のできごとに教えを当てはめ、ご自身の喜びと感謝に満ちた信仰体験を私に分けてくださるのです。

ご本部でサンガの皆さんと一緒に英語による法華経の勉強と実践を続けるうちに、私は英語で教えをお伝えすることが自分の使命であると気づかせていただきました。そのことに、今まで感じたことのない喜びを感じられるようになったからです。田中さんは私の願いをよく理解してくださり、いつも応援してくださっています。

田中さんと一緒に修行させていただくことで、私の心は徐々に浄化されていきました。タバコやコーヒーに依存する原因もなくなり、どちらも止めることができました。世の中には、人間関係の悩みや依存症から逃れたくて、お金や時間を使って病院やワークショップに通っている方がたくさんいらっしゃいます。あるいは問題の原因に気づかないまま、苦しい毎日を送っている方もおられます。そんななか、私は内省やサンガとの触れ合いのおかげさまで、意識的に自分を変え、両親との関係を修復し、タバコやコーヒーへの依存を克服することができました。教えによって人生が変わることに、私は心から感動しました。

数年前、ふとしたことがきっかけで、私は経典の表紙の裏に、今は亡き境田教会長さんが私に向けて遺してくださっていた手書きのお言葉を見つけました。それは「衆生を導利」という言葉でした。

私が一番必要とする時に、教会長さんがこうして私の願生を思い出させてくださったことが、今も不思議でなりません。

境田教会長さんのお言葉と、昨年リーダー研修に参加して学ばせていただいたことをもとに、私は自分の20年計画を立てました。私の願いは、主任さんや私の住まいとは別の場所に、バンクーバーの支部をつくることです。今年が計画の一年目です。仏さまのお導きをいただきながら、願いが叶うように精進させていただきます。

本日は私の体験と願いを皆さまの前でお話しさせていただけたことに、心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

法華三部經

各品のあらましと要点

妙法蓮華經

法師品第十（後半）

ごしゅほっし 五種法師

修行とは、どんなことをすればよいのか……。

第一に、教えを受持していく決意を念々に新たにすること（受持）。

第二に、教えを繰り返して学ぶこと（読）。

第三に、それを誦んじることができるよう心へ植えつけること（誦）。

第四に、人のために解説してあげること（解説）。

第五に、その教えが世に広まるように、あらゆる努力をすること（書写）。

この受持・読・誦・解説・書写を〈五種法師〉といって、法華經の教えに帰依するものがぜひ実践しなければならぬ五つの行を示されたものです。この五要素のうち一つでも欠けたら、眞の法華經行者とはいえないわけです。

如来の使い

この五つの行の中で〈人のために説く〉・〈教えを世に広める〉という積極的な行動を特に強調し、それでなければ人間社会は救われぬのだと説くのが、法華經の大きな特色ですが、この品にも、〈我が滅度の後、能く竊かに一人の為にも法華經の乃至一句を説かん。当に知るべし、是の人は則ち如来の使なり。如来の所遣として如来の事を行ずるなり。何に況んや大衆の中に於て広く人の為に説かんをや〉とおおせられているのです。このお言葉が、この品の第一の要点であるといついでいいでしょう。



えざしつさんき 衣・座・室の三軌

それならば、どんな心構えでその積極的な布教活動をすればよいのか……それは次の〈衣・座・室の三軌〉ではっきり示されています。これがこの品の第二の要点です。軌とは軌道の軌で、正しい道という意味です。

原文のままをあげれば、〈若し善男子・善女人あって、如来の滅後に四衆の為に是の法華經を説かんと欲せば、云何してか説くべき。是の善男子・善女人は、如来の室に入り、如来の衣を著、如来の座に坐して、爾して乃し四衆の為に広く斯の經を説くべし〉とあります。

この〈如来の室に入り〉・〈如来の衣を著〉・〈如来の座に坐して〉という三つは、単に教えとして重大であるばかりでなく、実にありがたい、尊いお言葉であることを、しみじみと感じなければなりません。まことに、もったいないお言葉です。

その三軌の意味は、すぐ後で、〈如来の室とは一切衆生の中の大慈悲心是れなり。如来の衣とは柔和忍辱の心是れなり。如来の座とは一切法空是れなり〉と簡潔に解説されています。すなわち、〈慈悲の心〉と〈柔和忍辱の態度〉と〈空を悟った智慧〉の三本立てで、法を説かねばならぬと教えられます。

このうち、〈慈悲の心〉と〈柔和忍辱の態度〉については、もはや説明の要もありません。

最後の〈空〉をどう受け取るべきか……ここに繰り返して説明しておきましょう。〈空〉の受け取り方には、およそ二通りあります。まず第一は、諸法は空であると観じることすなわち、すべての現象は〈空〉であって、仮のあらわれにすぎないものである、と見ることです。それは、もちろん正しい見方ではありませんけれども、そういう見方だけにとどまっていたのでは、生きた人間の救いにはなりません。

そこで、われわれは、その〈空〉をより積極的に考えなければならないのです。すべての物事が〈空〉であるということは、この世に何も存在しない、無であるということではありません。因と縁の和合によってたしかに存在しているのです。ただ永遠不変で固定したものは何もないということです。ですから、よ



い現象を望むならば、よい因となり、よい縁となればよいのです。

ところで、《無量義経説法品》に、〈应当に一切諸法は自ら本・来・今、性相空寂にして無大・無小・無生・無滅・非住・非動・非進・不退、猶お虚空の如く二法あることなしと観察すべし。而るに諸の衆生、虚妄に是は此是は彼、是は得是は失と横計して、不善の念を起し衆の悪業を造って六趣に輪廻し〉(『新釈法華三部経』第一巻164ページ以降参照)とあるように、すべての物事は本来、固定した差別のない、平等で大調和しているものなのです。つまり現象に善も悪もないのです。しかし凡夫にはそうは見えずに、差別でものを見て、不善の心を起こして苦しみを味わうのです。つまり、差別でものを見て、苦しんでいるのは凡夫のまちがいであって、本来すべての物事すべての存在は、差別もなく、平等で大



調和したものなのです。別の言葉でいえば、すべてのものは、あるべくしてあるのです。われわれ人間も、その例に洩れるものではありません。

われわれは、この世に生きる必要があればこそ、こういう形をとって、生まれ出ているのです。それを思えば、人間として生きていることの尊さ、生かされていることのありがたさを、ひしひしと感じざるをえません。と同時に、他の人びとも、この世に生きる必要があればこそ、生まれてきているのです。それを思えば、他の人の存在の尊厳さをも認めざるをえません。

〈空〉ということをおのうに受け止めれば、生きることの尊さ、ありがたさを、しみじみと味わうことがで

きます。すべての人びとに対しても、同じように生かされているきょうだいだという仲間意識が、実感として湧きあがってくるのです。さればこそ、人に対して法を説くのは、〈如来の座に坐す〉すなわち徹底した〈空〉の悟りを根底にしなければならないと、教えられているのです。

この三軌をまとめていいますと、〈人に法華経を説くときには、大きな慈悲心に発し、徹底した空の悟りを根底とし、柔和な態度で、しかも世の毀誉褒貶に動かされない芯の強い心をもって説かねばならない〉という教えであります。そして、これが《法師品》の核心であるということができるとのことです。

(庭野日敬著『法華三部経 各品のあらましと要点』

佼成出版社, 2016年 [初版 1991年], p. 104-109)

違いを認め、調和する心

7月には「全米布教 60 周年記念サンガの集い」が行なわれ、300 名近いサンガと共にこれまでの感謝と今後の布教伝道に向けて誓願を新たにさせていただきました。

その式典と時期を同じくして、ブラジル教会の発足 48 周年記念式典も行なわれました。

共通していたのは、子どもたちや若者たちが一人ひとりの個性を發揮し、調和して活躍している姿でした。みんなのお役に立ちたい、喜んでもらいたいという心があふれていました。

今月の会長先生のご法話の如く、一人ひとりの根底に具わる「他を愛おしみ、慈しむ心」が發揮された菩薩の姿そのものでした。

8月には、ドイツで第 10 回世界宗教者平和会議が開催され、「慈しみの実践：共通の未来のために——つながりあういのち」をテーマに、宗教者が違いを超えてどのように協力し、貢献できるかが話し合われました。

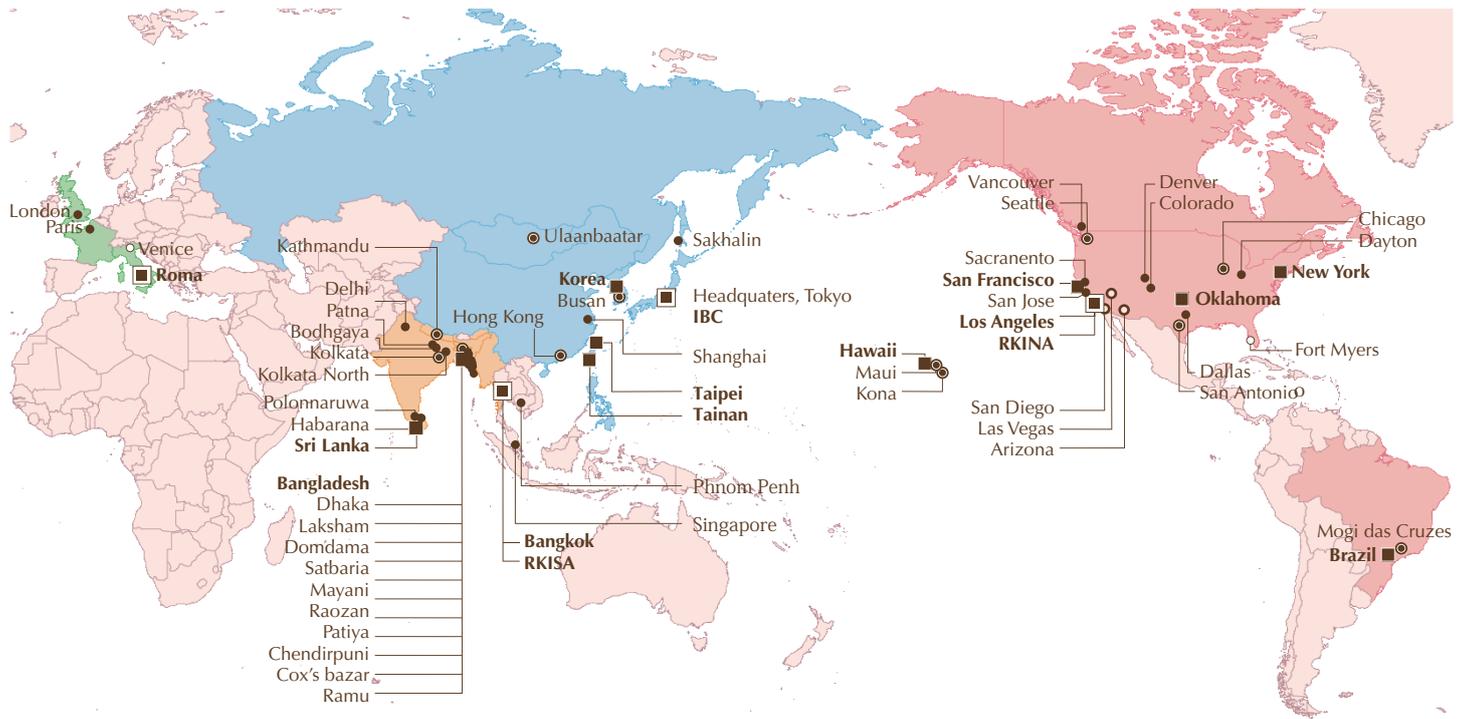
私たちも日々、違いを認め、受け入れながら調和の生活を心がけたいものです。

国際伝道部長
齋藤 高市



✉ Living the Lotus では、皆様のご意見・ご感想を募集しています。
お問い合わせは、以下の E メールアドレスにお願い致します。
E メール : living.the.lotus.rk-international@kosei-kai.or.jp

Rissho Kosei-kai: A Global Buddhist Movement



Rissho Kosei-kai Buddhist Church of Hawaii

2280 Auhuhu Street, Pearl City, HI 96782, USA
 TEL: 1-808-455-3212 FAX: 1-808-455-4633
 Email: info@rkhawaii.org URL: <http://www.rkhawaii.org>

Rissho Kosei-kai Maui Dharma Center

1817 Nani Street, Wailuku, HI 96793, USA
 TEL: 1-808-242-6175 FAX: 1-808-244-4625

Rissho Kosei-kai Kona Dharma Center

73-4592 Mamalahoa Highway, Kailua-Kona, HI 96740, USA
 TEL: 1-808-325-0015 FAX: 1-808-333-5537

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

2707 East First Street, Los Angeles, CA 90033, USA
 POBox 33636, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-269-4741 FAX: 1-323-269-4567
 Email: rk-la@sbcglobal.net URL: <http://www.rkina.org/losangeles.html>

Please contact Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Los Angeles

- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Arizona**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Colorado**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Diego**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Las Vegas**
- Rissho Kosei-kai Buddhist Center of Dallas**

Rissho Kosei-kai of San Francisco

1031 Valencia Way, Pacifica, CA 94044, USA
 POBox 778, Pacifica, CA 94044, USA
 TEL: 1-650-359-6951 FAX: 1-650-359-6437
 Email: info@rksf.org URL: <http://www.rksf.org>

Please contact Rissho Kosei-kai of San Francisco

- Rissho Kosei-kai of Sacramento**
- Rissho Kosei-kai of San Jose**

Rissho Kosei-kai of New York

320 East 39th Street, New York, NY 10016, USA
 TEL: 1-212-867-5677 Email: rkny39@gmail.com URL: <http://rk-ny.org>

Rissho Kosei-kai of Chicago

1 West Euclid Ave., Mt. Prospect, IL 60056, USA
 TEL: 1-773-842-5654
 Email: murakami4838@aol.com URL: <http://rkchi.org>

Rissho Kosei-kai of Fort Myers

URL: <http://www.rkftmyersbuddhism.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Oklahoma

2745 N.W. 40th St., Oklahoma City, OK 73112, USA
 POBox 57138, Oklahoma City, OK 73157, USA
 TEL: 1-405-943-5030 FAX: 1-405-943-5303
 Email: rkokdc@gmail.com URL: <http://www.rkok-dharmacenter.org>

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Denver

1255 Galapago St. #809 Denver, CO 80204, USA
 TEL: 1-303-446-0792

Rissho Kosei-kai Dharma Center of Dayton

617 Kling Drive, Dayton, OH 45419, USA
 URL: <http://www.rkina-dayton.com>

The Buddhist Center Rissho Kosei-kai International of North America (RKINA)

2707 East First St., Suite #1, Los Angeles, CA 90033, USA
 TEL: 1-323-262-4430 FAX: 1-323-262-4437
 Email: info@rkina.org URL: <http://www.rkina.org>

Rissho Kosei-kai Buddhist Center of San Antonio

(Address) 6083 Babcock Road, San Antonio, TX 78240, USA
 (Mail) POBox 692042, San Antonio, TX 78269, USA
 TEL: 1-210-561-7991 FAX: 1-210-696-7745
 Email: dharmasanantonio@gmail.com
 URL: <http://www.rkina.org/sanantonio.html>

Rissho Kosei-kai of Seattle's Buddhist Learning Center

28621 Pacific Highway South, Federal Way, WA 98003, USA
 TEL: 1-253-945-0024 FAX: 1-253-945-0261
 Email: rkseattlewashington@gmail.com
 URL: <http://buddhistlearningcenter.org>

Rissho Kosei-kai of Vancouver

Please contact RKINA

Rissho Kosei-kai do Brasil

Rua Dr. José Estefno 40, Vila Mariana, São Paulo-SP, CEP 04116-060, Brasil
 TEL: 55-11-5549-4446, 55-11-5573-8377
 Email: risho@rkk.org.br URL: <http://www.rkk.org.br>

Facebook: <https://www.facebook.com/rishokosseikaidobrasil>
Instagram: <https://www.instagram.com/rkkbrasil>

Rissho Kosei-kai de Mogi das Cruzes

Av. Ipiranga 1575-Ap 1, Mogi das Cruzes-SP, CEP 08730-000, Brasil

在家佛教韓國立正佼成會

〒 04420 大韓民國 SEOUL 特別市龍山區漢南大路 8 路 6-3
6-3, 8 gil Hannamdaero Yongsan gu, Seoul, 04420, Republic of Korea
TEL: 82-2-796-5571 FAX: 82-2-796-1696

在家佛教韓國立正佼成會釜山支部

〒 48460 大韓民國釜山廣域市南區水營路 174, 3F
3F, 174 Suyoung ro, Nam gu, Busan, 48460, Republic of Korea
TEL: 82-51-643-5571 FAX: 82-51-643-5572

社團法人在家佛教立正佼成會

台灣台北市中正區衡陽路 10 號富群資訊大廈 4 樓
4F, No. 10, Hengyang Road, Jhongheng District, Taipei City 100, Taiwan
TEL: 886-2-2381-1632, 886-2-2381-1633 FAX: 886-2-2331-3433

台南市在家佛教立正佼成會

台灣台南市崇明 23 街 45 號
No. 45, Chongming 23rd Street, East District, Tainan City 701, Taiwan
TEL: 886-6-289-1478 FAX: 886-6-289-1488
Email: koseikaitainan@gmail.com

Rissho Kosei-kai South Asia Division

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Kathmandu

Ward No. 3, Jhamsikhel, Sanepa-1, Lalitpur, Kathmandu, Nepal

Rissho Kosei-kai of Kolkata

E-243 B. P. Township, P. O. Panchasayar, Kolkata 700094, India

Rissho Kosei-kai of Kolkata North

AE/D/12 Arjunpur East, Teghoria, Kolkata 700059, West Bengal, India

Rissho Kosei-kai of Bodhgaya Dharma Center

Ambedkar Nagar, West Police Line Road, Rumpur, Gaya-823001,
Bihar, India

Rissho Kosei-kai of Patna Dharma Center

Rissho Kosei-kai of Central Delhi

77 Basement D.D.A. Site No. 1, New Rajinder Nagar,
New Delhi 110060, India

Rissho Kosei-kai of Singapore

Rissho Kosei-kai of Phnom Penh

W.C. 73, Toul Sampaov Village, Sangkat Toul Sangke, Khan Reouseykeo,
Phnom Penh, Cambodia

RKISA Rissho Kosei-kai International of South Asia

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8141 FAX: 66-2-716-8218

Rissho Kosei-kai of Bangkok

Thai Rissho Friendship Foundation
201 Soi 15/1, Praram 9 Road, Bangkok, Huaykhwang, Bangkok 10310, Thailand
TEL: 66-2-716-8216 FAX: 66-2-716-8218 Email: info.thairissho@gmail.com

Rissho Kosei Dhamma Foundation

No. 628-A, Station Road, Hunupitiya, Wattala, Sri Lanka
TEL: 94-11-2982406 FAX: 94-11-2982405

Rissho Kosei-kai of Polonnaruwa

Rissho Kosei-kai Bangladesh

85/A Chanmari Road, Lalkhan Bazar, Chittagong, Bangladesh
TEL/FAX: 880-31-626575

Rissho Kosei-kai Mayani

Mayani Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Damdama

Damdama Barua Para, Mirsarai, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Patiya

China Clinic, Patiya Sadar, Patiya, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Satbaria

Village: Satbaria Bepari Para, Chandanaih, Chittagong, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Chendhirpuni,

Village: Chendhirpuni, P.O.: Adhunogar, P.S.: Lohagara, Chittagong,
Bangladesh

Rissho Kosei-kai Dhaka

408/8 DOSH, Road No 7 (West), Baridhara, Dhaka, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Laksham

Village: Dhupchor, Laksham, Comilla, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar

Ume Burmize Market, Tekpara, Sadar, Cox's Bazar, Bangladesh

Rissho Kosei-kai Cox's Bazar, Ramu Shibu

Rissho Kosei-kai Raozan

Dakkhin Para, Ramzan Ali Hat, Raozan, Chittagong, Bangladesh

Buddiyskiy khram "Lotos"

4 Gruzinski Alley, Yuzhno-Sakhalinsk 693005, Russia
TEL: 7-4242-77-05-14

Rissho Kosei-kai of Hong Kong

Flat D, 5/F, Kiu Hing Mansion, 14 King's Road, North Point, Hong Kong, China

Rissho Kosei-kai Friends in Shanghai

Rissho Kosei-kai of Ulaanbaatar

(Address) 15F Express Tower, Peace avenue, khoro-1, Chingeltei district,
Ulaanbaatar 15160, Mongolia

(Mail) POBox 1364, Ulaanbaatar-15160, Mongolia

TEL: 976-70006960 Email: rkkmongolia@yahoo.co.jp

Rissho Kosei-kai of Erdenet

2F Ikh Mandal building, Khurenbulag bag, Bayan-Undur sum,
Orkhon province, Mongolia

Rissho Kosei-kai di Roma

Via Torino, 29, 00184 Roma, Italia
TEL/FAX: 39-06-48913949 Email: roma@rk-euro.org

Rissho Kosei-kai of the UK

Rissho Kosei-kai of Paris

Rissho Kosei-kai of Venezia

Rissho Kosei-kai International Buddhist Congregation (IBC)

166-8537 東京都杉並区和田 2-7-1 普門メディアセンター 3F
Fumon Media Center 3F, 2-7-1 Wada, Suginami-ku, Tokyo 166-8537, Japan
TEL: 03-5341-1230 FAX: 03-5341-1224 URL: <http://www.ibt-rk.org>